

## 様式①

## 2022 年度 大学院修士課程奨学金（人間科学研究科内部進学者向け）申請書

学籍番号 (以下不要)	1	J	1	9	E	0	5	8	フリガナ 氏 名 (自署捺印)	カトウ リュウセイ 加藤 隆聖 印
電話番号	自宅		—		—		携帯番号		080 — 7886 — 5000	
志望する 研究指導	研究領域名		感性認知情報システム						指導教員名	菊池 英明
	研究指導名		言語情報科学							
本奨学生の選定に際し、2022 年度大学院人間科学研究科修士課程2年制内部選抜入学試験における出願書類を選考資料として使用することに… <input checked="" type="checkbox"/> 同意します。 ←チェックを入れてください。										

## ■奨学金申請理由と将来計画

※奨学金申請理由、入学後の学習・研究活動での活用計画、および修士課程修了後の将来展望について、本奨学金の趣旨（博士課程進学も視野に入れて、人間科学的な学融合研究に取り組む学生支援）をふまえて自身の考えに基づき記述すること。（字数は問わないが、本申請書全体がA4紙1枚に収まる分量とする）

私は当研究科での研究課題として、日常会話において会話参与者間の関係が話者のパラ言語表現に与える影響を解明することに取り組むことを考えている。当研究の背景として、これまでのパラ言語研究は実験音声学的手法に基づいて行われたものが多く、日常会話とはパラ言語表現の有り様が異なっていることが指摘できる。一方で音声分析に耐える音質で日常会話を大量に収集することは困難であった。国立国語研究所において開発され2022年に公開された『日本語日常会話コーパス』(CEJC)を活用することで、多様な会話参与者間の関係を考慮した音声分析が可能になった。当研究を達成することで言語学習者にとって学習の難しい様々なコミュニケーション場面における表現の教育に貢献でき、社会的にも意義が高い研究といえる。卒業研究の段階では、会話参与者間の関係を社会学の観点からとらえ、会話同士を比較可能な尺度を見つける。修士課程の段階では、発話スタイルがパラ言語表現に与える影響を調べるために、発話スタイルの推定を行う。しかし、多様な会話を包括的に比較分析するためには、研究課題が多く、修士課程に限らず博士課程まで研究を続ける必要がある。具体的には、博士課程では卒業研究で見つけた尺度と修士課程で推定した発話スタイルを用い、各会話データに現れるパラ言語表現を比較する。発話スタイルがパラ言語表現に影響を与える仕組みを明らかにすることで、日常においてパラ言語表現がどのように生成されるのかを明らかにできると考えている。

本学での学費は約90万円であり、実験演習料などの諸会費は約7万円である。これに加えて日々の生活費が必要となる。就職するのではなく大学院へ進学することを選ぶのであれば、学費や生活費は自身で負担することを親と約束しているため、アルバイトをしながら研究を行う必要がある。そこで、奨学金を貰うことができれば、アルバイトの負担が減り、より一層研究に邁進できると考えている。

## ■指導教員による推薦理由（所見）

※奨学金申請者は、修士課程内部選抜入学試験出願時の志望研究指導教員に記載を依頼すること。

※指導教員各位 当該学生の研究内容につき、専攻にかかる研究推進力、業績評価について、当該領域における研究の位置づけ、オリジナリティ、専門領域外への応用可能性等を含め記載ください。

音声におけるパラ言語情報の研究は、初期には実験音声学のアプローチで行われることが多かったが、データ収集の様々な工夫により自然かつ大規模な会話音声データを得てデータエンジニアリングと融合する潮流となっている。大量の日常会話音声を対象にして、音声学の知識と情報科学的な手法を駆使して日常におけるパラ言語表現のあり様をとらえようとする申請者の課題設定は、当該分野に限らず広く価値が認められるものとする。申請者はゼミ所属前からこの研究課題への意欲を持っており、ゼミ所属以降も旺盛な向上心と真摯な取り組みによって着実に研究を進めることができています。音声学分野ではパラ言語情報のカテゴリを基本感情で表現されることが多いが、日常会話における社会的要因の影響を強く受ける発話スタイルに着目できたことは、申請者の地道な学習と学融合的な視点によるところが大きい。以上のことから、貴奨学生の主旨に相応しい学生であることを保証し、ここに推薦する。

指導教員名

菊池 英明

印

